

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175000835		
法人名	特定非営利活動法人 すばる		
事業所名	グループホーム すみれ		
所在地	北海道北見市留辺蘂町花丘22番地31		
自己評価作成日	令和3年2月10日	評価結果市町村受理日	令和3年4月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大自然の中に囲まれた平屋の木造作りで、温泉街の近くに位置しています。近場では「山の水族館」への見学や、北見の「菊祭り」へ参加など楽しんでいます。入居者さんの要望によりご家族様に会いに行く支援も行ってあります。日常生活では入居者の方とスタッフが支えあい生活しておりますので、掃除や洗濯は参加できる入居者の皆さんと一緒にっております。入居者の方達の交流が多く賑やかな雰囲気でも過ごされております。これから介護を目指す高校生の実習受け入れや、実習先への訪問などにも力を入れています。スタッフの年齢も幅広く、様々な角度からその方の生活に寄り添った支援ができます。入居してから終末期まで安心して過ごせるホームを目指しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://u.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0175000835-00&Serv

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和3年3月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成17年開設の「グループホームすみれ」は近くに留辺蘂町温根湯温泉農業交流センター花エールがあり美しく整備された花畑や自然の山々に囲まれ、四季が肌で感じられる場所に位置している1ユニット平屋建ての事業所となっております。開設時からの理念「長い人生の主役です 自分らしく ゆっくりと のんびりと」を介護提供の指針として管理者、職員は理念に沿った心の在り方、心の持ち方を確認しながら利用者本位の介護提供に努め、利用者との会話を大切にし、利用者ごとの様にしたいか、どの様に生きたいかを尊重しており、利用者が言いたい事が言えて、おこって、おいしいものを食べて、笑い合っで本音で過ごす事が出来る様に支援しています。3年前から始めたブログは毎週更新して様子を伝え、コロナ禍の今、家族や地域の方に安心と理解をして頂ける様に取り組んでいます。事業所では今年よりタイ国の技能実習生の受け入れ準備を進めており、事業所横にある民家を利用者と職員が力を合わせて片付けを行い、寄宿舎として改装する予定となっており、施設長や他の職員も住み込んで実習生を支え、介護職員として育て、ゆくゆくは地域の介護職員不足への貢献やグローバルな視点に立った介護事業の向上に寄与して行けたらとの思いを膨らませています。また、職員育成に、介護技術のみならずアセッサー制度を取り入れて、自分自身を客観的にとらえ、自ら改善点を把握出来る様に取り組んでいます。利用者を中心に、これまで培って来たことを大事にしながら、新しい事に挑戦し、明るく前向きに利用者を支えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有についてホーム内に掲示し、会議等で理念を共有している。	開設時からの理念は玄関やパンフレット等目に付く所に掲載して常に意識しており、会議時に理念に沿った心のあり方を確認し、理念の実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナの影響を受けて外出等や交流等ここ一年は出来ていない。	町内会に加入し、町内会行事に参加していましたが今年度はコロナ禍の為、交流を控えています。ブログを発信し毎週更新して、事業所の様子を知らせています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ブログなどで日々の情報発信を行い地域に向けて認知症の理解や現状について地域の人々に向けて活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議等はコロナの状況を見て開催や書面会議等でお知らせしている。	地域住民代表、地域包括支援センター職員、行政職員等の参加を得て開催していましたが、現在コロナ禍で書面での開催と成っています。	事業所を理解して頂く手立ての一つとして運営推進会議に家族の出席と、議事録を家族、職員と共有し、事業所運営に活用して行く事を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に、事業所の状態を報告し、ケアサービスの取り組みを伝え、協力関係を築くよう取り組んでいる。ホームページのブログで日々の暮らしの様子を掲載している。	行政職員や地域包括支援センター職員の運営推進会議出席を得ており、困難事例の相談や助言を得たり、情報交換等、常日頃より連携して事業所運営に反映しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	抑制廃止委員会の設置とマニュアル等成し、玄関の日中施錠はせず、不安定な入居者の方に対しては、環境を整えるなど、年数回会議を開催し話し合いを行っている。	管理者、職員が参加して定期的に身体拘束廃止委員会を開催しています。年に数回会議時に内部研修を行い、身体拘束が及ぼす弊害を学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、言葉の虐待や、身体的虐待、等を全員が理解出来る様再度会議等で周知出来る様努めている。変色等ある時はヒアリーハット等に記載し、会議で話し合いをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解と活用について話し合いは行い、この必要性を関係者と話し合いそれらを活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の結末は入居時と、その都度変更になった場合は、文章と説明を行い理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホームページ内でブログを発信し毎週更新して様子をお知らせしています。家族の訪問時には様子を伝えると共に、突発的な事があった時には速やかに報告し、何でも言って貰える関係を築いています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見や提案を聞く機会を設け、職員の意見を反映できている。	管理者は日常業務時や毎月の会議時、個人面談時に職員の意見や提案、思いを把握し、就業環境整備に反映しています。年2回、アセッサー制度を導入し、職員は自分自身の改善点を見つめ、資質向上に取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は出来る限りの範囲で職場環境・条件等の整備に努め、キャリアアップ制度の改正をしアセッサーを制度を取り入れている。給与水準が明確に分かるよう表に示している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格等取得応援できるような環境整備を整えている。外部の研修等はオンライン等で行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部との交流はここ一年難しい。オンライン等検討している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には様子をお伝えし、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が必要としている支援を見極め、福祉用具など他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯物、台所の片づけなど共に共同して行い入居者の方の助け合いも見守りしながら、関係作りをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた際には、日々の様子をご家族へお伝えし、関係作りに努めている。(職員全員が説明出来るよう努めている)		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	何時でも気軽にホームに来ていただける様な雰囲気作りに努めている。	友人と年賀状のやり取りをしたり、趣味の塗り絵を楽しんだり、家族の協力を得て、利用者のこれまでの関わりや趣味、習慣を大切にされた支援に取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方達の関係がより良好に生活出来る様、余暇時間の工夫や利用者の方同士自然と出来ない事に対してお互い助け合う姿勢を大切に、見守りながら支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても何かあればフォロー出来る様、経過を管理側でフォローしている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや、暮らしの希望に沿って自立した生活が出るような様々な角度から支援できるよう努めている。	利用者の暮らし方の希望や思いを、利用者との会話や様子から把握し、希望に沿った対応に取り組んでいます。更に、家族にも毎日が心残りにならない様な支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活等は、情報にまとめて、把握出来る様に努めている。都度新しい情報は付け加えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの心身の状態やできる事の可能性を常に把握し、記録などに残している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、関係者と話し合いながら、現状に即した介護計画を作成している。毎月会議等での話し合いも行っている。	利用者、家族の意向を確認し、担当職員によるモニタリング、職員によるカンファレンスを行い、関係者の意見を参考に状況に即した介護計画を作成し、定期的に見直しを図っています。介護計画実施状況は毎日、ケアチェック表で確認し介護計画作成に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の様子や気づきを記入し、ケアプランに沿って介護が行えているか、毎日チェックしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状態に応じて、都度ミーティング等開きサービスの多様化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外食や、買い物等で本人が、力を発揮しながら安全で豊かな暮らしが出来る様支援しているが、限られている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の方には、馴染みの病院にかかれるよう出来るだけ希望に沿った支援をしている。状態に応じて往診も受ける体制も出来ている。	現在は利用者の全員が往診を受けており、専門医への受診は事業所が対応しています。月2回、訪問看護師により健康管理が行われ24時間オンコール対応により利用者、家族の安心に繋がっています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回訪問看護を受けており、その都度健康管理や、変化について相談し助言や協力体制を作る事が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、利用者の情報提供書で状態を伝え、安心して早期退院出来る様関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアを行っており、重度化や終末期に向けて家族、本人、主治医と話し合いチームでケアを行っている。	入居時に重度化及び看取りに関する指針、ターミナルケア指針により説明し同意を得ています。最期までその人らしく尊厳を保ちながら、家族、職員、医療機関が連携し、親しい方々に見守られたターミナルケアに取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	その都度ミーティングでの話し合いとマニュアルを作成しているが、救命救急などの定期的な訓練はマニュアルで作成している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は、連絡網等で整備されており、火災避難訓練等にも参加して頂いている。	消防署立会いのもと昼夜想定で火災避難訓練を実施しています。訓練の未経験者をなくすため避難訓練を2回づつ年4回行っています。また、停電時にはポータブルストーブ、灯油などが備えられています。水害・土砂・感染症対策の計画書の作成準備に入っています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格やプライバシーを尊重し、言葉かけや対応をしている。	利用者の自室からパット等を持ち運ぶ時は分からず見られないように尊厳を傷つけない、羞恥心を感じさせないよう配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どのようにしたいか希望を必ず聞いて自己決定出来る様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり全員は難しいが、その日をどのように過ごしたいか、促しかけて希望に沿うよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう、髪型や服装には気をつけ支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に片付けや、食事を共に行っており、好みに応じて食事内容を変更するなど楽しく食事が出来る様工夫をしている。誕生会やイベント等では楽しめるよう工夫している。	献立は利用者や職員からの提案で予め60食程の献立を立てローテーションを組みながら、調理担当職員より多種多様な料理が提供されています。バイキングやテイクアウト、外食など楽しい食事になるよう行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量などは温度板で把握しており、状態に応じてお粥や、食事形態を変えるなど柔軟な対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態を把握しており毎食後、口腔ケアを促しており、誤嚥や口腔内のトラブルがないように努めている。口腔ケアも出来るだけ自立して出来る様支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の失敗が少なくなるよう、トイレでの自立に向けた支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛け、誘導などで自立排泄に取り組んでいます。また、身体状況によりオムツ、パット交換と保清を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、全員の排便状態の確認をし運動、医師、ご家族と相談しながら予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現状では、自立して入浴できる方は少ない、週2回以上は入浴出来る様工夫している。	週2回を基本に利用者の希望や体調を考慮して入浴を支援しています。利用者一人ひとりに合ったお風呂の温度を調整し気持ちよく入浴できるように努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの睡眠状態を温度板で把握し、対応に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の処方箋を別途用意しており、何時でも確認出来るようになっている。服薬のマニュアルも用意している。事故が発生した時は早急に対策し、再発防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年間行事や誕生会など、特に食事を楽しみにしている方が多く、思い出に残るような食事メニュー等の工夫をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ここ一年コロナの影響でほぼ外出できていない。	天気の良い日は事業所の周りを散歩しながら利用者の気分転換や体力維持を支援しています。花を見に出かけたり買い物に行き外食を楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族には、入居者の方の自己管理で、紛失しても良い金額で了解を頂き自室でお預かりしている。買い物へ行ける入居者の方は見守りで行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員を通じて、電話やお手紙のやり取りが出来るよう工夫している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱が無いように壁紙や光に気を使い、心地よく過ごせるよう努めている。	共有の空間では利用者同士がゆったり過ごせるようソファやテレビなど配慮された配置になっています。温度・湿度に気を配り、利用者と職員が一緒におしゃべりするなど楽しい一時を過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った人同士で過ごせるよう、入居者の方の関係性に配慮しながら、ソファの席へご案内をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物で安心して過ごせるよう、ベッドと福祉用具以外は今まで使用していた物を用意して頂いている。思い出の写真等も飾っている。	居室にはクローゼット、介護用ベットが備え付けられています。掃除、洗濯、シーツ交換などをすることで清潔を保ち、使い易い家具の配置を家族と相談し、安心して安定した日常を過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は、出来るだけ自立した生活を送れるよう季節の飾りや手すりなど、必要に応じて福祉用具を使用している。		